

令和3年度 環境で地方を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

成果報告会 発表資料

活動団体の本事業への関わり

今年度より“環境整備”に取り組む	✓
昨年度から引き続き“環境整備”に取り組む	
昨年度までの“環境整備”を経て、今年度より事業化に取り組む	
昨年度までの“環境整備”と“支援チーム派遣（事業化支援）”を受けて引き続き事業化に取り組む	

活動団体名：西表島農業青年クラブ

活動地域：沖縄県・西表島

活動におけるテーマ・キャッチコピー

人も自然も観光も循環する西表島

活動団体紹介

西表島農業青年クラブとは

- 西表島の45歳以下の農業者で組織されている
- 主に農業の技術の発展にとりくみ、九州大会や全国大会でも表彰されている
- 取組作物は、お米、パイン、マンゴー、サトウキビ、畜産等



「人も自然も観光も循環する西表島」

環境

- 豊かな生き物が守られる
- イリオモテヤマネコの保全

経済

- 循環型の有機栽培の島
- 人、自然、観光が持続可能

社会

- 島民が住み続けたい島
- 島の魅力を島で感じる

環境保全の
基金が集まる

使用する農薬
が減る

島内産品が
島内で消費される

資源が島外へ
流出しない

島民の
収入向上

島外消費者の
購入増加

観光客が
長く滞在する

生き物に優しい農業
製品のブランド化

学校給食と連携した
島内消費と食育

ホテルや宿泊施設と
連携した島内消費

観光×地産地消の
ツアーコンテンツ

地域通貨×観光

有機作物の島内循環

観光の島内循環

経産牛の島内
肥育事業

堆肥を使った農業

観光客 お土産を販売
する島民
製糖工場

経産牛の島外流出

生ごみの
堆肥化

農業廃棄物の
堆肥化

観光客の短時間滞在

オーバーツーリズムの
懸念

生ごみコンポスト
の家庭配布

島内での精米
ライスセンター
の設置

堆肥化施設
の設置

宿泊施設等の生ごみ
野菜やフルーツの残渣
家庭からの生ごみ

コンポスト
配布実験

**堆肥を使用した
有機農業**

堆肥化のための
資源調達

生ごみの未処理
共同コンポストの臭い

高い輸送コスト
→農家の負担や環境負荷

農作物の島外流出と
島外作物への依存

農薬や化学肥料による生
物多様性への影響

牛の糞尿の未処理

課題
今年の取組
今後実施
将来実施



地域のありたい未来の実現のために 今年度取り組んだこと

■ステークホルダーでのあつまり

→島民や企業はかなり本事業への取り組みを応援してくれている事がわかった

■堆肥化事業

→堆肥の基となる堆肥を仕込み堆肥作りを進める事ができた。新堆肥舎の建設事業も進める事ができた。

■視察研修

→大きな刺激をもらった。これにより牛肉の地産地消や法人の立ち上げに繋がった。今後堆肥事業を進めるにあたって誰がやるか問題も解決の糸口ができた。

■新事業の創造（生ゴミ堆肥）

→各家庭で何ゴミの一次処理（発酵）までしてもらおう画期的な取り組みをする事になり、西表島における生ゴミの資源の循環に大きな一歩を踏み出している

■新事業の創造（牛肉の地産地消）

→まだまだ始めたばかりだが牛肉の地産地消を行う事で畜産農家や米農家の所得向上と観光の質の向上につなげていけるようになった。

取り組みを通じた地域プラットフォームの変化

- ステークホルダーの方々がどのように関わり、それが何に繋がっていくかを明確が出来た
- 堆肥事業を進める事がスタートだったが、今では西表島全体の資源の循環や地産地消まで取り組みが広がり、観光にまで影響を与えられるような大きな目標が出来た。
- 生ゴミ堆肥事業も進めていく事で全島民がステークホルダーの候補であり、そこに関わる事で自分自身も資源の循環の一部である事を体験してもらえきっかけができた。

取組におけるボトルネックや新たに見えてきた課題

- 一番の課題は農業者のマインドの変化
- ミニライスセンターや精米工場を島内に整備できるか
- 本取組は島民全体に関わる取組であり島民全体への周知をする事が望ましい

今後の展望

- 堆肥事業をより前に進める
- 堆肥を使った生産を進めていく
- 新規の生ゴミ事業を軌道に乗せる
- 新規の牛肉の地産地消事業を軌道に乗せる